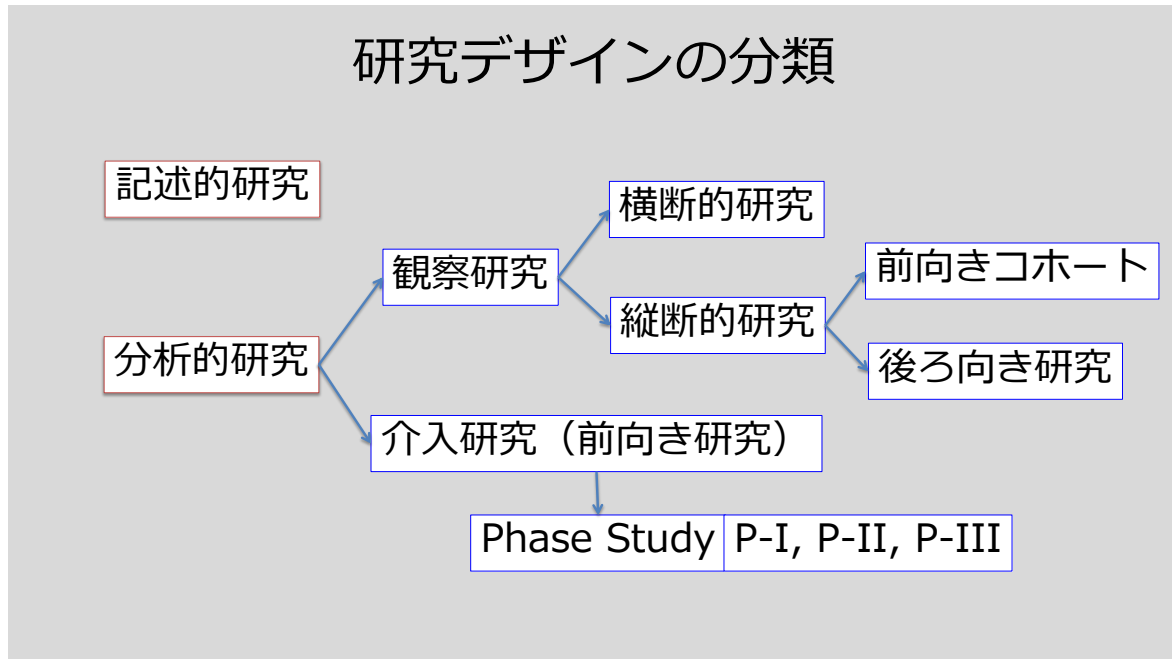


## 観察研究：前向きコホート研究 Prospective cohort study

最近、がん臨床研究の領域においても観察研究が行われている。JACCRO では GC-08 DELIVER 試験と CC-18 BEETS 試験が観察研究として行われている。



- 研究対象の群（コホート）を「ありのままに観察」して、目的とするアウトカムの発生を予測出来そうな因子を開始時に測定しておき、定期的にアウトカムの発生を行いながら、コホートをフォローアップする。
- アウトカム（例えば死亡など）の発生率や原因を研究します。
- 前向きにフォローすることによりアウトカムの発生を予測する因子を正確に測定することが出来、後向きの欠点である欠落データを排除できます。
- 欠点としては「介入していない」ので因果関係の曖昧さが残り、交絡因子の影響も注意を要します。
- 一方、がん領域では死亡や再発などのアウトカムが短期間のため、効率よく少数例でも結果が得られる利点があります。